

屋外におけるマスク着脱の実践例について（提案）

1 屋外においてマスクを不要とする場合

（1）マスクなしで問題ない場合

○ 一人で行動するとき

- 散歩、ペットの散歩のとき
- 徒歩で移動しているとき
- 自転車で移動しているとき



■ マスクは携帯し、人と会話するなどの場面ではマスクを着用できるようにする。

(2) 熱中症などを考慮し、注意しながら
マスクなしを積極的に考える場合

- 屋外で活動・作業をするとき
 - 運動
 - 農作業
 - 工事現場での作業 など



■周囲の人との距離が十分（2m、最低でも1m）に確保できない場合は会話をしないこと。

■屋内に入るときに、マスクを着用できるようにする。

○屋外におけるマスクの着脱について

- マスクなしとする場合であっても、自身の判断でマスクを着用していただいで構いません。
- マスクをしていないときであっても、咳エチケット等の実践は忘れずに。



2 屋外であってもマスクを必要とする場合

(1) 感染リスクが高い場合

- 会話をするとき
- 人が密集しているとき



(2) 発熱又は風邪の症状があり、通院等の理由によりやむを得ず外出するとき など